

令和6年度信州まつもと空港搭乗者アンケート調査 定期便(新千歳便・福岡便・神戸便)(令和6年8月～10月)における利用者の動向

- 1 実施期間 令和6年8月～10月(期間中の計92日間)
- 2 調査方法 ウェブアンケート
(信州まつもと空港搭乗待合室にアンケートフォームへアクセスする二次元コード付きのチラシを掲示)
- 3 調査対象 信州まつもと空港定期便の出発便の搭乗者
- 4 有効回収票数 合計 560票

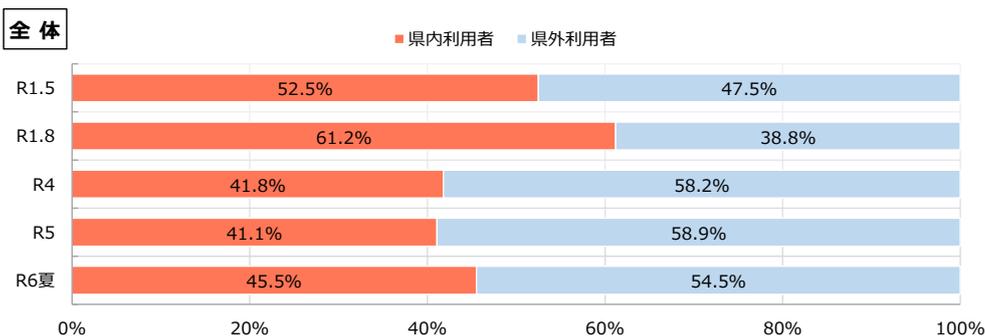
福岡便(2便)	186票
新千歳便	117票
神戸便(2便)	257票
- 5 アンケート期間中の搭乗者数(利用率)

福岡便	24,279人(80.5%)
新千歳便	14,223人(96.5%)
神戸便	19,671人(65.6%)
- 6 その他
 - ・新型コロナウイルスの感染拡大により、令和2年度及び3年度は調査なし
 - ・令和4年度から調査方法を聞き取り方式からウェブアンケート方式に変更
 - ・令和4年度の調査項目から神戸便(R1.10/27就航)を追加
 - ・令和6年度より夏期と冬期の2回の実施に変更

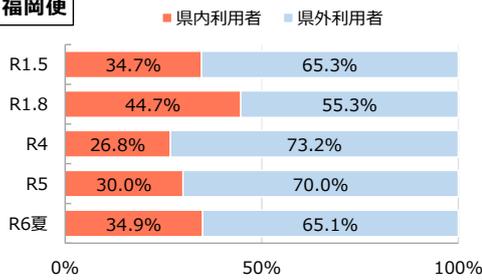
【県内・県外利用者の状況】

令和6年度の定期便全体では、県内利用者の割合が45.5%、県外利用者の割合が54.5%となり、県外利用者の割合が高い結果となった。

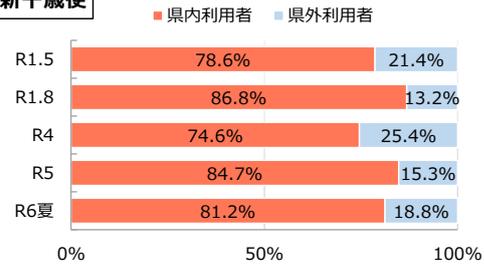
路線別では、**福岡便、神戸便は、県外利用者の割合が高く、約6割が県外利用者であった。**新千歳便は県内利用者の割合が8割を超え、過去調査年と同様に県内利用者の割合が高い結果となったが、県外利用者は3.5%昨年度比で増加した。昨年度末北海道で初めて実施したメディアキャラバンやエアポートセールスによる旅行商品造成の効果があったと考えられる。



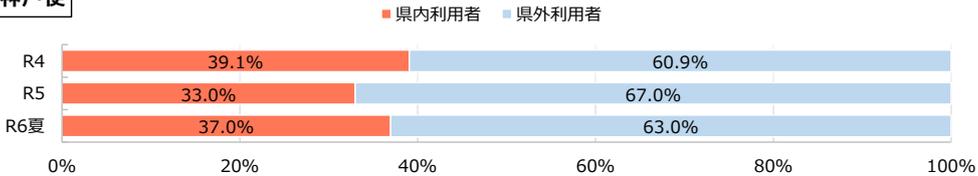
福岡便



新千歳便



神戸便

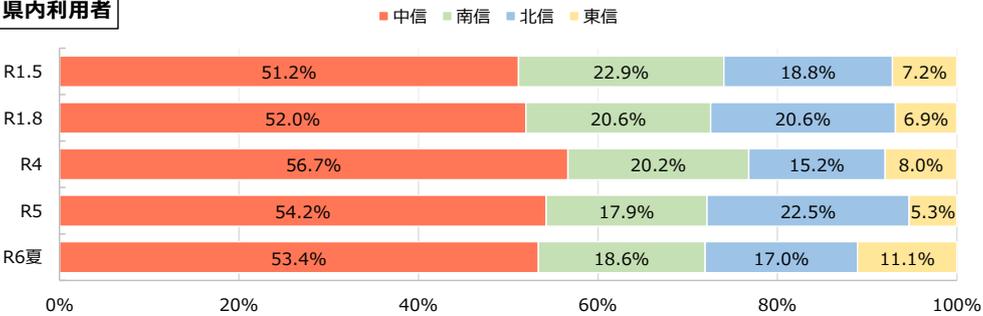


【利用者の居住地】

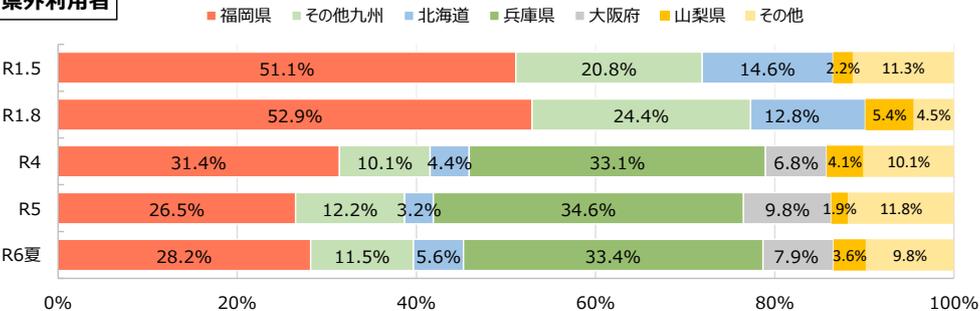
居住地別に見ると、**県内利用者では中信が53.4%**、続いて南信18.6%、北信17.0%、東信11.1%の順となっている。**東信の利用者割合は前年と比較すると5.8%の増加**となっており、デジタルサイネージ等による県内遠隔地での利用促進事業の効果あったと考えられる。

県外利用者では、**北海道の利用者割合が前年から2.4%増加**。北海道におけるメディアキャラバン等の効果がここでも窺える。また、**山梨県が3.6%で前年と比較すると1.7%の増加**となっており、増加要因として令和3年から実施している山梨県における広告宣伝により松本空港の利便性が認知されてきていることが考えられる。

県内利用者



県外利用者

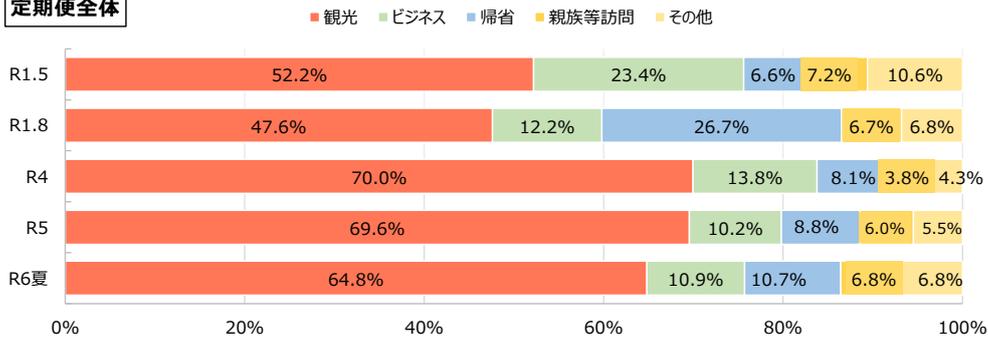


【旅行目的】

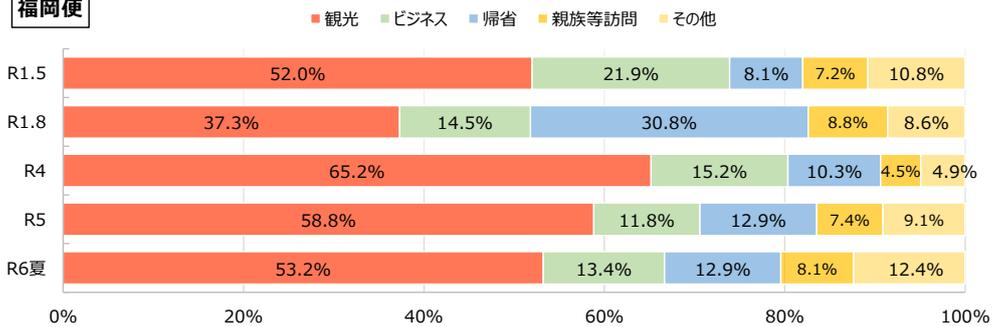
令和6年度における定期便全体の旅行目的では「観光」が64.8%となり、前年度と比較すると4.8%の減少。アフターコロナの観光需要が落ち着きを見せ始めたことが要因と考えられる。一方で、各就航先でのPR活動により飛行機移動の便利さが認知され、「帰省」や「親族等の訪問」目的の利用が増えた。

路線別に見ると、神戸便の「帰省」の割合が6.1%から11.3%に増加した。松本-神戸間を約60分で繋ぐ利便性の高さを関西地域のイベントや広告宣伝によりPRし、路線認知度が向上したことが増加の一因と考えられる。

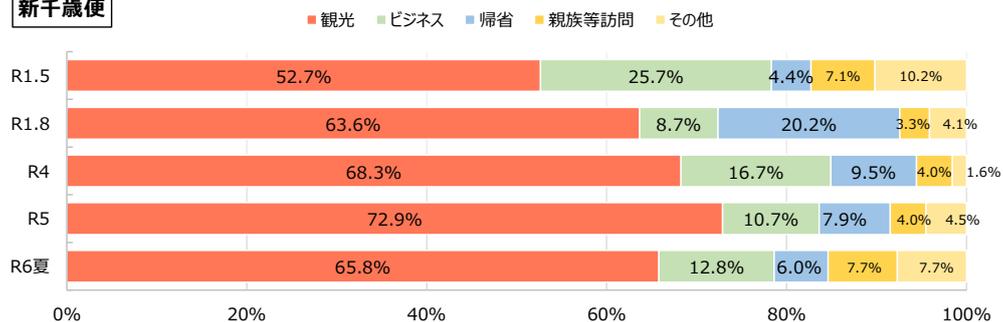
定期便全体



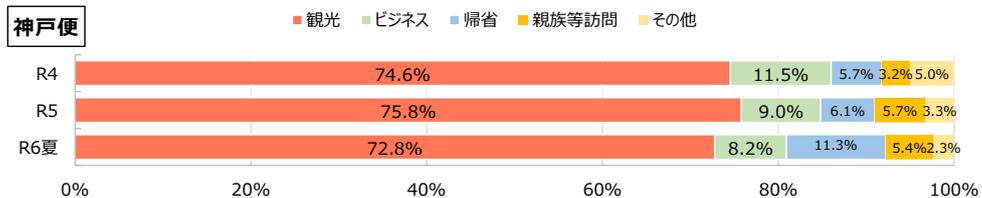
福岡便



新千歳便

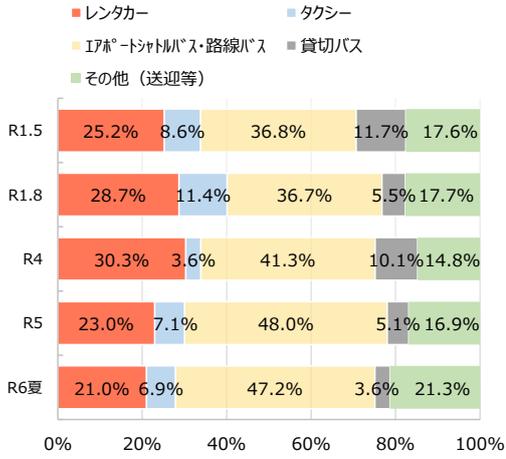


神戸便

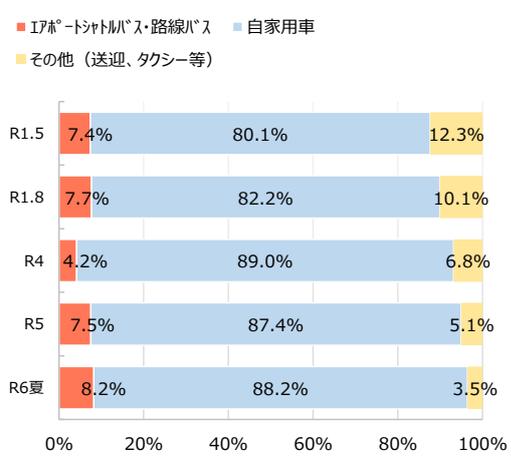


【参考(その他調査項目)】

空港への交通手段(県外利用者)



空港への交通手段(県内利用者)



利用者年齢層

